●一般演題 I

座長：京都大学医学研究科 泌尿器科学教室　小川　修

1. 放射線性膀胱炎における膀胱出血に対する芎帰膠艾湯の有用性の検討

済生会川口総合病院 泌尿器科
○龍治　修、菊野 伸之、若松 太郎、今井 健二

膀胱がんや骨盤部の放射線治療後の膀胱炎にみられる膀胱出血は管理が困難なことが少なくなく、泌尿器科医にとって頭を悩ますもののひとつである。われわれは、膀胱出血の治療、予防に対し芎帰膠艾湯を用いており、有効であったので症例を提示し報告する。芎帰膠艾湯は、血虚を主体に瘀血、津液の不足きたす病態に用いられ、痔出血、性器出血、尿路出血などの諸種の出血の対して有効とされる。本疾患も、血虚、瘀血を主体とした病態であると考えられ、膀胱粘膜の瘀血を改善することで出血の予防効果があると考えられた。

2. 尿管結石に対する漢方薬の排石効果

藤沢湘南台病院 泌尿器科[1)]
大口東総合病院 泌尿器科[2)]
○吉田　実[1)]、河原 崇司[2)]、松崎 純一[2)]

【目的】尿管結石に対する漢方治療の効果を検討するため、漢方エキス剤を投与した24例中、排石の有無が確認できた19例についてレトロスペクティブに排石効果を検討した。

【症例】19例中、男性15例、女性4例。投与した方剤は猪苓湯単独6例（長径平均6.3mm）、猪苓湯＋芍薬甘草湯7例（長径平均5.1mm）、猪苓湯＋ウラジロガシエキス1例、猪苓湯＋ウラジロガシエキス＋クエン酸1例、猪苓湯＋クエン酸1例、柴苓湯3例（うち猪苓湯＋芍薬甘草湯から柴苓湯単独への変方1例、＋芍薬甘草湯1例、タムスロシン併用1例）であった。

【結果】19例中排石あり11例、下降あり4例、不変4例であった。猪苓湯単独投与では、6例中、排石あり2例、下降あり2例、不変2例であったのに対し、猪苓湯＋芍薬甘草湯では7例中排石あり6例、不変1例と、芍薬甘草湯併用例では猪苓湯単独例に比べ排石率が高かった。芍薬甘草湯併用例での投与開始から排石確認までの日数は平均25日（2日～66日）であった。柴苓湯投与3例のうち、タムスロシン併用例で排石があったが、この症例ではタムスロシン・ウラジロガシエキスの3ヶ月投与で変化がなく、ウラジロガシエキスを柴苓湯に変更したところ1ヶ月後に下降が認められ、4ヶ月間投与で排石した。

【考察】猪苓湯単独より、芍薬甘草湯を併用することで排石効果が高くなる可能性が示唆された。また、排石困難例には柴苓湯が有効である可能性が示唆された。